

2026 年 9 月 10 日

公益財団法人 日本自転車競技連盟

報道関係各位

愛知・名古屋 2026 アジア競技大会

自転車日本チームが自国開催で金メダルを目指す

選手とコーチが語る大会への思いと強化方針 5 競技を紹介

公益財団法人日本自転車競技連盟（JCF）は 9 月 8 日（火）、愛知・名古屋 2026 アジア競技大会に向けた記者会見を開催しました。選手・コーチが、自国開催への思い、チームの戦略、ロサンゼルス五輪を見据えた目標を語りました。

自国開催の舞台で目指すのは、金メダル、そして日本の自転車競技の魅力をより多くの人に届けることです。会見では、トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX フリースタイル、BMX レーシングの選手たちが、それぞれの言葉で大会への決意を語りました。

コーチ陣が語ったチームの強みや戦略と併せ、会見での主なコメントをご紹介します。

参加選手のコメント

窪木一茂選手 トラック中距離

「いつもトレーニングしている会場で試合が行われるので、準備はすごくできていると思います。強い日本をアピールできるように頑張りたいです。まずは結果を残すことが大事。そのうえで、ロサンゼルス五輪に向けて中距離も短距離も団結してメダルを取りにいく。走りでも、その他の行動でも、チームに良い影響を与えられたらと思います」



窪木一茂選手（トラック中距離）

佐藤水菜選手 トラック短距離

「手ぶらで帰るわけにはいけないと思っていますので、金メダルを目標に頑張りたいです。最後は笑って終わられるように、全力で頑張りたいと思います」



佐藤水菜選手（トラック短距離）

中村輪夢選手 BMX フリースタイル（オンラインで参加）

「BMX フリースタイル・パークは今回が初めてのアジア大会なので、第1回目はとても重要だと思っています。もちろん優勝しか見ていないですし、良い走りをして、少しでもBMXに興味を持ってもらえたらと思っています。旗手については、いろんなスポーツ競技がある中で、この競技を選んでもらえたことが一番うれしかったです。プレッシャーをプラスに捉えて、良い走りができたらと思います」

「ロサンゼルス五輪で金メダルを取ることが一番大きな目標です。アジア大会は会場や緊張感が違うので、次のロスに向けて良い練習になればと思っています」



中村輪夢選手（BMX フリースタイル）

中井飛馬選手 BMX レーシング

「日本での開催なので、前回のアジア大会よりもいろんな方に見ていただけたと思います。前回に続き金メダルを取れるように頑張りたいです。今回はスタートからゴールまで、最初から先頭を走って優勝したいと思っています」



中井飛馬選手（BMX レーシング）

留目夕陽選手 ロード

「初めてのアジア大会で、自国開催ということもあり、優勝しか見ていません。コースは5月に試走しました。かなり険しいコースですが、日本チームにも勝算があると思います。3人で立ち回りながら、うまく作戦を練って優勝を目指したいです」



留目夕陽選手（ロード）

石田唯選手 マウンテンバイク

「母国開催の大会に代表として出場できることがすごく嬉しいです。たくさんの人に支えていただいて今の自分があるので、心から感謝しています。自信を持ってスタートに立ちたいです。マウンテンバイクを見たことがない方にも競技の迫力を見ていただき、より多くの人に知っていただけたらうれしいです」



石田唯選手（マウンテンバイク）

コーチコメント

ジェイソン・ニブレット トラック短距離 ヘッドコーチ

「前回のアジア大会は非常に成功した大会でした。同じ結果を再現するのは簡単ではありません。中国やマレーシアには世界で勝っている強い選手がいて、厳しい戦いになります。それでも自信を持って臨み、ベストを尽くし、表彰台の一番上に立ちたいと思っています」

ロス・マチェフスキー トラック中距離 ヘッドコーチ

「自国開催は選手たちに大きな力を与えてくれます。男子は経験豊富な選手と若手が組み合わさったチームです。窪木選手が世界選手権や五輪で積み重ねてきた経験は、代えがたいものです。今回の大会では、チームパシュートの2番手という新たな位置での起用を試みます。彼の強さとパワーを活かしたいと考えています」



会見で大会への展望を語るコーチ陣

競技紹介と観戦のポイント

トラック 先頭交代と仕掛けのタイミング

傾斜のある走路で着順やタイムを競います。チームスプリントでは選手が順に先頭を務め、最後の走者へスピードをつなぎます。ケイリンでは位置取りと加速のタイミングが見どころです。スプリントは予選のタイム、そして勝ち上がり方によっての疲れ具合などが勝敗を決します。チームパシュートはいかに安定したタイムで走れるかがポイントです。マディソンは長距離のため、周りが疲れた時に仕掛ける体力が必要になります。4種目を走るオムニウムは、種目毎にポイントが加算されていくため、戦術、体力、知力など総合力が求められます。

ロード チームの戦略と個人の走力

ロードレースは一斉にスタートし、フィニッシュの着順で勝敗を決めます。持久力に加え、集団での位置取りや勝負を仕掛ける判断、チームの連携に注目です。個人タイムトライアルは選手が間隔を空けて出走し、走行タイムを競います。

マウンテンバイク 登る力と下る技術

クロスカンントリーは、起伏のある未舗装のコースを周回する競技です。登りで発揮する力と、下りや障害物のある区間を走り抜ける技術の両方が問われます。路面に応じた走行ラインの選択にも、選手の判断や得意分野が表れます。

BMX フリースタイル 空中技の難度と演技の完成度

パーク内のジャンプ台などを使い、1分間の演技ランで空中技トリックを繰り出す採点競技です。技トリックの難易度や独創性、演技の流れ、コントロール、着地などが評価されます。大技に加え、技をどう組み合わせつつなぐかという演技構成にも注目です。

BMX レーシング 最大 8 人が競り合う位置取り

最大 8 人が一斉にスタートし、起伏やコーナーのあるコースを走って着順を競います。スタート直後の加速、ジャンプ、コーナーでの位置取りが連続します。周囲の選手の動きに合わせた判断と駆け引きが見どころです。

開催概要

開催日：2026 年 9 月 8 日（火）

会場：日本競輪選手養成所・オンライン

内容：自転車競技の説明、選手・コーチによる記者会見

報道関係の皆様へ

特集・選手紹介など、ぜひご取材・ご掲載をご検討ください。

公益財団法人日本自転車競技連盟 事務局 担当：佐藤

E-mail：koho@jcf.or.jp